

2016年以降の「きぼう」の地球観測分野に係る活用についての  
アンケート調査（アイデア募集）

2010年11月

特定非営利活動法人

宇宙からの地球観測を考える会

## 1. はじめに

国際宇宙ステーション (ISS; International Space Station) は、日本、米国、欧州、カナダ及びロシアの国際協力のもとに開発が進められている有人宇宙施設であり、間もなく完成の時期を迎えようとしている。

ISS 計画における日本実験棟「きぼう」は、2008 年 3 月より 3 回に分けてスペースシャトルにて打ち上げられ、2009 年 7 月に完成し、本格的な利用段階に入ったところである。また、2009 年 9 月には、日本の開発した宇宙ステーション補給機 (HTV) の技術実証機が H-IIB ロケット試験機にて打ち上げられ、ISS への物資補給ミッションに成功した。

ISS の運用については、その主要な役割を担う米国としては、ブッシュ前政権において 2015 年度予算までの運用にとどまっていたため、参加各極間で調整されている運用計画も 2015 年までのものとなっていたが、2010 年 3 月 11 日に日本で開催された ISS 計画参加各極の宇宙機関長会議において、2016 年以降の運用継続に向けた方針を確認し、今後各政府内で合意をとるための必要な手続きを踏んで行くことを共同声明として発表した。

上記の国際的な動向を踏まえ、我が国としても 2016 年以降の ISS 運用に関する考え方についての検討を開始したところである。

このような動きを受けて、「特定非営利活動法人 宇宙からの地球観測を考える会 (FEOS)」が主体となり、2016 年以降の「きぼう」の地球観測分野に係る活用について国内の省庁・研究機関、研究者に対して広くアイデアを募集するためにアンケート調査 (アイデア募集) を実施することとした。本アンケート (アイデア募集) の結果については JAXA に対して提出を行う予定である。

## 2. 「きぼう」船外実験プラットフォームの利用

船外実験プラットフォームには、装置交換機構が 12 ユニット設けられているがその内の 10 ユニットに対して実験装置の搭載が可能である。なお、宇宙基地協定 (IGA) 等に基づき、我が国は 5 ユニットの利用権を保有しているが具体的な搭載場所については、国際間の調整などが必要になる。

船外実験プラットフォームは、実験装置に対し、電力、通信制御、流体ループによる能動的な熱制御等の利用リソースを提供する能力を有し、ISS の中でも際立った特徴を有する実験施設である。なお、船外実験プラットフォームの利用に関する情報は以下の「きぼう船外実験プラットフォーム利用ハンドブック」にまとめられている。

<http://iss.jaxa.jp/iss/kibo/theme/ef/handbook.pdf>

## 3. アンケート提出の要領

### 3. 1 プロポーザル作成上の注意

次の要領に従い、アンケートの提出を行うこと。提出された文書は返却しない。

- 本アンケートについての提案者は、提案者の名前・所属・連絡先、内容（目的、意義、重要性、期待される成果等）についての情報を記入・送信すること。
- A4 サイズの用紙に印刷するイメージで PDF 化し、FEOS 事務局のメールアドレス（[otake@feos.or.jp](mailto:otake@feos.or.jp)）に提出すること。送付ファイルサイズの上限は、メール本文も含め 10MB 程度とする。それ以上の容量については送信前に別途メールで確認すること。
- 文書は、MS-WORD を使用し、12 ポイント以下のサイズを使用すること。
- 各ページにはページ番号を記載すること。

### 3. 2 使用言語

日本語で作成すること。

### 3. 3 ページ数

本文、資料も含め 20 ページ以内とする。

### 3. 4 アンケートの実施期間

2010 年 11 月 22 日～2011 年 1 月 14 日 17 : 00 (必着)

### 3. 5 アンケート提出先

以下に E-mail にて提出すること。

特定非営利活動法人  
宇宙からの地球観測を考える会 (FEOS)  
担当 : 大竹良征

Tel:03-3481-0647

FAX:03-5465-5092

E-mail : [otake@feos.or.jp](mailto:otake@feos.or.jp)

<http://www.feos.or.jp>